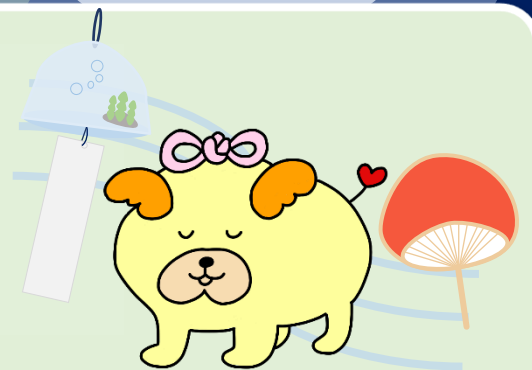




# 阿波の国保

## =Topics=

- 徳島県国民健康保険団体連合会通常総会
- 徳島県国保診療施設運営協議会総会
- 国保診療施設四国ブロック会研修会



## <<別添>>

- 数字で見る国保医療費の動き(令和6年3月～令和6年5月審査分)
- 国保連合会日誌 (令和6年5月1日～令和6年7月31日)

## 令和5年度事業報告・各会計決算など可決承認

### －徳島県国民健康保険団体連合会通常総会－

令和6年7月31日、徳島県国保会館で徳島県国保連合会通常総会を開催しました。

はじめに、遠藤彰良理事長は、挨拶の中で「生産年齢人口の減少に加え、国保被保険者数の減少や医療費の増大、物価の高騰などにより、国民健康保険事業、介護保険事業等を取り巻く環境は厳しさを増している。本会の収入基盤となる手数料収入においても、後期高齢者分・介護保険分では取扱件数が伸びた反面、国保被保険者数の減少に伴い国保分では減収となり、厳しい状況が続いている。一方、政府は6月21日に『経済財政運営と改革の基本方針2024』を閣議決定した。全世代型社会保障の構築に向けた取り組みの一環として、国保制度では『都道府県内保険料水準統一の徹底』が盛り込まれ、『勤労者皆保険の実現のため、企業規模要件の撤廃と短時間労働者への被用者保険の適用拡大の徹底』について、今年末までに道筋を付け、結論を得る』とスケジュールを明示している。令和3年3月に策定した『審査支払機能に関する改革工程表』については、システムのクラウドサービスの利用、支払基金との受付領域・審査領域の共同利用が掲げられており、令和6年度からは予定どおり受付領域の共同化が開始され、引き続き共同利用に向けた協議に取り組んでいるところだ」と昨今の情勢について述べました。

また、システム更改に係る費用についても触れ「保険者の皆様の御協力により、令和4年度、5年度の不足分は、国庫補助として満額確保することができた。令和6年度分も、令和5年度補正予算により、前倒して25億円を獲得することができた。今後は、システム更改後の安定稼働並びにシステム利活用による保険者支援に注力していきたい」と述べました。

続いて、健康家庭表彰(徳島県知事表彰)として15保険者188世帯が、優良職員表彰(国保連合会理事長表彰)として2名がそれぞれ表彰されました。

徳島県知事の来賓挨拶を森口浩徳政策監補兼保健福祉部長に代読いただいた後、議長に遠藤理事長を選出し、議案審議が行われました。提出した令和5年度事業報告及び各会計の歳入歳出決算の認定など2報告、8議案はいずれも原案どおり可決、承認されました。

## 令和6年度事業計画など可決・承認

－ 徳島県国保診療施設運営協議会総会 －

令和6年6月1日、徳島県国保会館にて徳島県国保診療施設運営協議会総会を開催しました。

開催にあたり影治信良会長は「マイナンバー法等の一部改正法により、令和6年12月2日に現在の健康保険証の新規発行を停止し、マイナ保険証を基本とする仕組みに移行することを決定した。また、4月からは『医師の働き方改革』の新制度がスタートし、『医師の健康確保』、『地域医療の継続性』を守りながら、かつ、『医療の質の維持・向上』に取り組むことが求められている。国保診療施設は、過疎地域の保健・医療・福祉を支えている一方、少子高齢化、人口減少の最先端の地域ともなっており、人材確保も困難な状況が続いている。私たちを取り巻く環境は、年々厳しさを増しているが、地域における他施設・多職種との役割分担や連携強化を図り、直面する課題を一つひとつ克服していかなければならない」と挨拶しました。

続いて、徳島県保健福祉部 健康寿命推進課 国保運営担当室の橋本晋作室長に来賓挨拶をいただいた後、影治会長を議長に選出し、議案審議が行われました。令和5年度徳島県国民健康保険診療施設運営協議会事業報告並びに歳入歳出決算の認定ほか4議案はいずれも原案どおり可決、承認されました。

また、総会では新役員が選任され、新会長には野上武典勝浦町長が就任しました。



▲ 挨拶をする影治会長

## 「国保直診のありたい姿」について考える

### －国保診療施設四国ブロック会－

令和6年7月27日、ザ・グランドパレス徳島において国保診療施設四国ブロック会が開催されました。

はじめに、会長会を開催し、次期四国ブロック会の開催地等について協議しました。

その後の研修会では、開催にあたり、国保診療施設四国ブロック会 大原昌樹代表が挨拶し、「国保診療施設は、良質で適切な医療・保健・福祉サービスの提供、地域包括医療・ケアの実現に大きな役割を果たしている。一方で、国保診療施設を取り巻く環境は、少子高齢化、医療従事者の減少など年々厳しさを増している。特に人口減少の問題は、中山間地域・離島で顕著であり、この影響による医療需要の低下、支える側の減少は国保診療施設の運営に大きな影響を及ぼしている。さらに、『地域医療構想』、『働き方改革』、『医師偏在対策』が推進され、これらへの対応も求められているところである。このような中、本日は令和6年3月、全国国保診療施設協議会が取りまとめた『国保直診のありたい姿』についてパネルディスカッションを実施することとした。出席者の皆様に有益な研修会となることを祈念する」と述べられました。

次に、当番県挨拶として、徳島県国保診療施設運営協議会 野上武典会長、来賓挨拶として、全国国保診療施設協議会 小野剛会長から挨拶がありました。

その後、次のとおり、講演とパネルディスカッションが行われました。

#### <講演>

演題：「国診協の情勢と国の動向 ～ポスト2025年の地域医療も含め～」

講師：全国国民健康保険診療施設協議会 会長 小野 剛

#### <報告>

演題：「令和6年度国診協事業計画及び事業実施状況

～国保直診を核とした地域包括ケアシステムの推進に向けて～」

報告者：全国国民健康保険診療施設協議会 事務局長 松島 秀雄

<パネルディスカッション>

## テーマ：「国保直診のありたい姿」

<<概要>>

令和6年4月、四国の全国国保診療施設協議会会員施設に対し「国保直診のありたい姿」に関するアンケート調査を実施。調査結果をもとに4人のパネリストが報告。その後、全体で意見交換を行いました。

司会者 徳島県国民健康保険診療施設運営協議会 医師部会長 須藤 泰史

パネリスト つるぎ町立半田病院 院長 中園 雅彦  
美波町国民健康保険美波病院 院長 本田 壮一  
美馬市国民健康保険木屋平診療所 所長 藤原 真治  
三好市国民健康保険東祖谷歯科診療所 所長 細川 竜彦

特別発言者 全国国民健康保険診療施設協議会 副会長 大原 昌樹  
(国民健康保険診療施設四国ブロック会代表)

助言者 全国国民健康保険診療施設協議会 会長 小野 剛

パネルディスカッション終了後、歯科保健部会を開催しました。

<歯科保健部会>

国保診療施設四国ブロック会歯科保健部会高橋 徳昭部会長の挨拶の後、パネルディスカッションについての意見交換を行いました。

翌日は歯科保健部会において「東祖谷歯科診療所」の視察を行いました。



.....

<<別添PDF>>

数字で見る国保医療費の動き(令和6年3月～令和6年5月審査分)

国保連合会日誌(令和6年5月1日～令和6年7月31日)

